

幼保連携型認定こども園移行による効果検証について

令和5年12月22日

藤井寺市立認定こども園推進本部

令和4年9月27日に開催された、令和4年度第1回藤井寺市公共施設マネジメント推進本部会議において、藤井寺市立幼稚園・保育所再編実行計画〔後期計画〕の検討にあたっては、道明寺こども園の幼保連携型認定こども園への移行後の検証結果を踏まえることとされた。そこで、認定こども園推進本部として、道明寺こども園の現状について次のように評価した。

道明寺こども園の認定こども園への移行は順調に進んでいる。検証で示された課題を解決し、引き続き教育及び保育の質の向上に向けた取り組みを進められたい。

○園児に負担をかけることなく認定こども園への移行が進んでいる。

7月と11月に実施した保護者に対するアンケート調査の結果によれば、ほとんどの保護者が、園児がこども園の生活を楽しんでいると感じ、こども園に戸惑っている子どもは7月時点で12%、11月時点で6%と低下している。園児にとって認定こども園の移行が負担になっていることはほぼないように思われる。

○保護者からの評価は高いものがあるものの、職員とのコミュニケーションに課題も見られる。

アンケートによる保護者の意見として、教育・保育が充実したこと、友達が増えたこと、先生のかかわりなどを評価する声が多くあった。しかしながら、園からの情報発信の面においての評価は相対的に低めであり、職員とのコミュニケーションをとりにくくなったという意見が自由記述からも複数見られた。これは、登降園の動線が変わったこと、参観、懇談などの保護者参加の行事の在り方が変わったこと、組織規模が大きくなったことなどに起因すると考えられる。今後、保護者との対話の充実が図られるよう取り組む必要があると考える。

○質の高い教育・保育を行うよう職員研修が熱心に行われている。

認定こども園は、多様な生活スタイルをもつ全ての子どもに安心の場を保障するとともに、よりよい成長発達を促していく教育・保育の場である。保育教諭には幅広い知識や子ども理解、保育者としての力量が求められる。研修を継続することでより質の高い教育及び保育の提供が期待できる。

保育の改革期にあたり、認定こども園移行を契機に、他の幼稚園や保育所でも保育の質向上をめざした取り組みを進め、本市の就学前教育・保育を充実させていくことが望まれる。

○こども園職員間の連携に苦労している。

認定こども園初年度の運営においては、子どもの安心、安全を確保する職員の動線、保育のあり方や行事についての考え方など、多くの課題の整理とこども園としての具体的な保育方法の構築が求められる。円滑な運営をめざして、園の職員は大変な努力を重ねているものの、組織が大きくなった分、職員間の伝達、連携を迅速かつ効果的に行うにはこれまで以上の取り組みが必要である。ICTシステム、ノンコンタクトタイムの活用などによる改善も望まれるところである。